

# 地域コミュニティの活性化における コミュニティソーシャルワーカーの役割

曾山彩 藤紗也華 政安佑香 横須賀美和

## 1. はじめに

私たちのグループは、社会福祉協議会、特別養護老人ホーム、障害者支援施設で社会福祉援助技術現場実習 I（以下、実習とする）を行ったメンバーである。本報告を行うにあたって、私たちは施設の利用者も地域住民の一人であると改めて理解し、地域住民との連携・協働を研究テーマとしていた。しかし、実習担当教員と面談を重ねる中で、私たちが研究したいことはコミュニティワークなのではないかと気づいた。そして、コミュニティワークを調べていき、地域コミュニティ活性化におけるコミュニティソーシャルワーカー（以下、CSW とする）の役割に興味を持った。

地域コミュニティは地域住民が主体となって地域の課題解決に向けて活動を行う場であると理解した。その活動に CSW が介入し、地域の活性化のために地域住民に働きかける必要があると考える。そしてその働きかけのために、CSW が地域コミュニティに必要な機能を理解し、活用することが大切であると考えた。

そのため、本報告では地域コミュニティ活性化における、コミュニティワークの展開と機能について研究していきたいと考える。

## 2. 研究方法

- ①グループメンバーで実習体験について話し合う
- ②体験に応じた文献を収集する
- ③中間発表を行う
- ④必要に応じて教員と面談を行う
- ⑤研究テーマに応じて研究内容を深める
- ⑥レジュメ作成をする
- ⑦報告会で発表する

### 3. 先行研究

#### (1) 地域コミュニティの定義

コミュニティは、地域住民が生活者の視点で生活の場を見直し、共通の問題関心のもとに、共同の力で地域問題を解決していくための活動の場である。コミュニティは、これらの社会的活動を通じて、地域問題の調整・解決機能を発揮し、住民自治の力量を蓄積していくことが期待されている。

(引用：山崎丈夫『地域コミュニティ論改訂版』自治体研究社 2006 年)

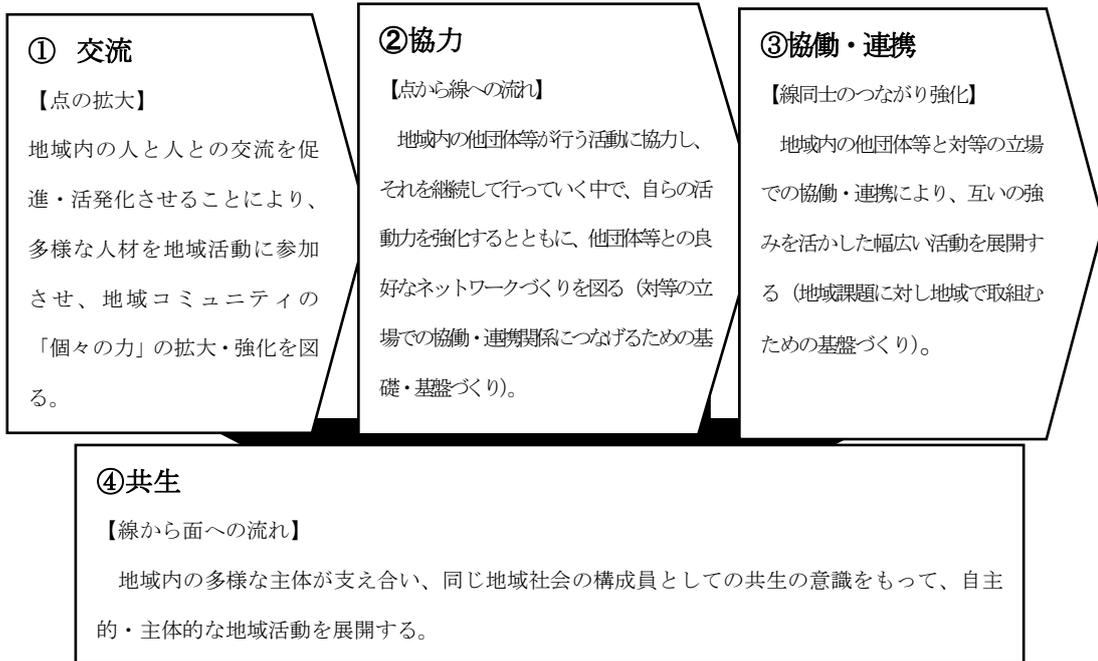
\*下線については私たちが加筆した。それを具体的に理解したものを『4. 先行研究の考察』で述べている。

#### (2) 地域コミュニティの機能

相互扶助機能	冠婚葬祭、福祉等個人や家族のみでは対応できない事案に対処する
地域文化維持機能	経済活動でカバーしきれない文化や伝統といったソフト面の管理、継承を行う
総合利害調整機能	まちづくりや防災等地域全体に関わる事案で地域住民の協力が不可欠な課題の調整を行う
連絡調整機能	戦前では統治者側からの施政の受皿として、また戦後は行政側からの要請の伝達や住民の意向の取りまとめ等
行政補完機能	行政側に代わって簡単な道路補修、まちの清掃等を行う

(参考：山内 一宏『少子高齢化時代におけるコミュニティの役割 ～地域コミュニティの再生～』参議院事務局企画調査室編『立法と調査 288 号』2009 年 p 190 を参考に作成)

### (3) 地域コミュニティ活性化の流れ



#### <目標>地域コミュニティの活性化を通じた“地域共生力”の向上

市町村やNPO、大学等と連携して、多様化する地域課題への対応に関わる人材の育成やネットワークづくりを促進し、地域自らが地域の課題を発見・認識・共有し、解決していく力（「地域共生力」）の向上を図る。

（引用：『地域コミュニティ活性化方策調査報告書』2009年 愛知県地域復興部地域政策）

## 4. 先行研究の考察

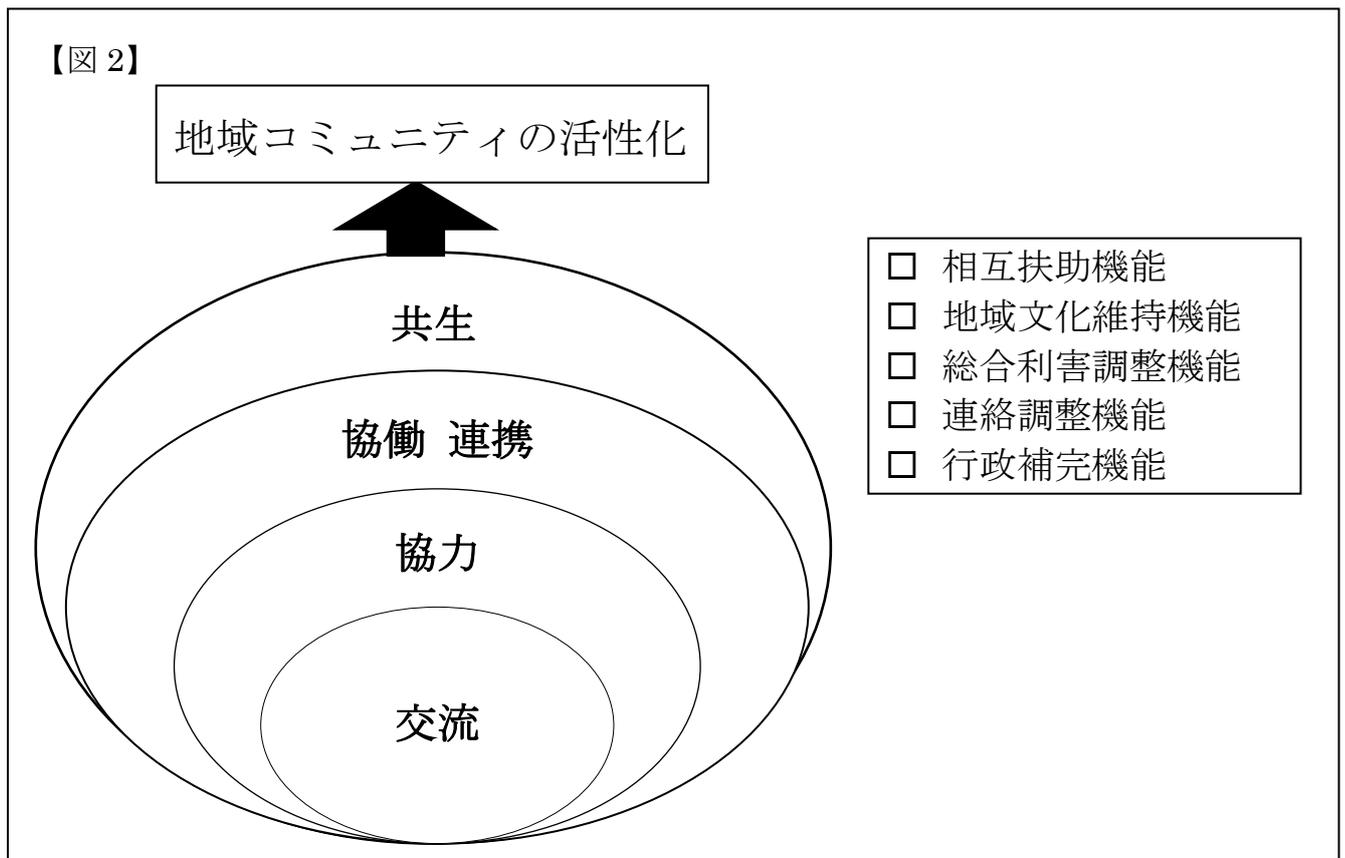
(1) 『3. 先行研究』の(1)の定義において、私たちは地域コミュニティを地域住民自身が地域の課題解決に向けた取り組みやまちづくり等を行う集団であり、そこには町内会や自治体も含まれると考える。また、消費、生産、労働、教育、衛生・医療、遊び、芸能、祭りで住民同士が関わり合いながら、住民相互の交流が行われている地域社会を『3. 先行研究』の(1)の定義で述べられている活動の場・社会的活動と理解した。

私たちは、『3. 先行研究』の(2)に基づき、機能を以下のように理解し分類した。

(2)地域コミュニティの機能

相互扶助機能	個人や家族のみでは対応できない課題を地域住民自らが発見・把握し解決する機能
地域文化維持機能	文化や伝統といった管理、継承、維持・形成する機能
総合利害調整機能	地域全体に関わる地域住民の協力が不可欠な課題の調整を行う機能
連絡調整機能	要請の伝達や住民の意向の取りまとめ等、連絡・調整を行う機能
行政補完機能	地域内の調整・各種団体やNPOなどの行政との連携、または行政側に代わって住民が簡単な地域の管理を行う機能

先行研究から私たちは、地域コミュニティの活性化の流れを交流、協力、連携・協働、共生と設定した。そして、地域コミュニティが活性化されるにはそれぞれが機能している必要があると考え、以下の【図2】を作成した。



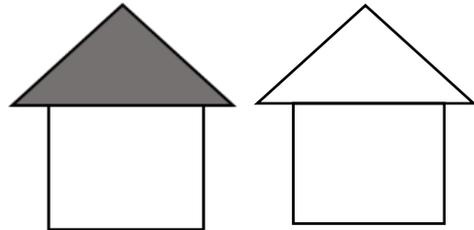
## 5. 仮事例

【設定】

### A 地域

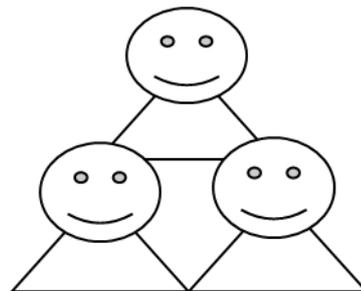
#### 課題

- ・ 高齢化地域
- ・ 地域間での交流が少ない
- ・ 商店街の過疎化も進んでいる



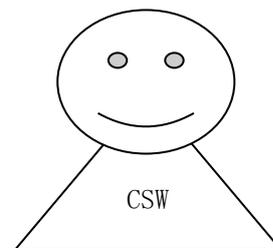
### 地域住民

- ・ A 地域の住民
- ・ 住民同士の関係は希薄化している



### CSW (コミュニティソーシャルワーカー)

- ・ A 地域の社会福祉協議会の職員

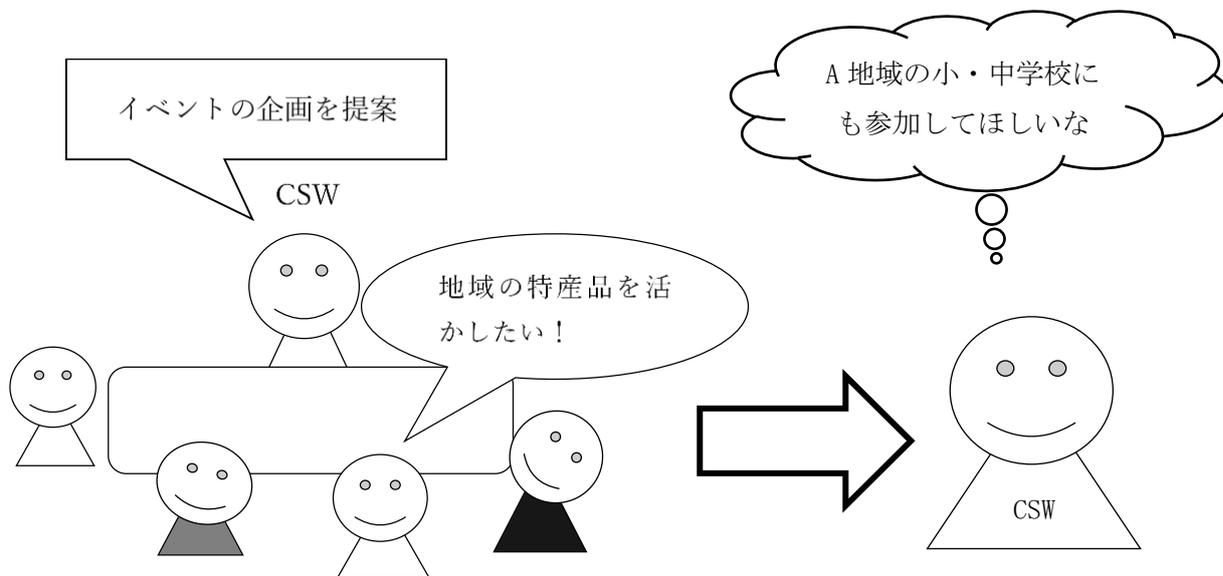


### 場面

CSW は A 地域のサロンに出向いた際、地域住民から「地域の中で楽しみがない」「地域の活気がないから何か活動がしたい」との意見を聞いた。その意見を受け、CSW が A 地域のアセスメントを行ったところ、地域間での交流がなく、商店街の過疎化が進んでいるといった A 地域の課題を把握した。

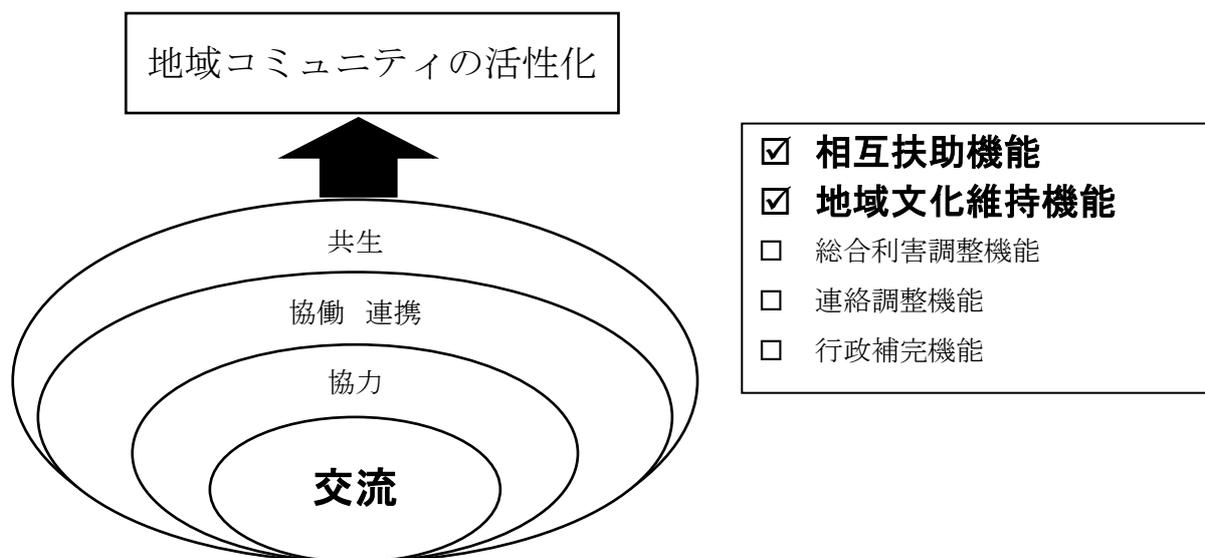
### 【場面1】交流

A 地域の課題を把握した CSW は町内会やサロンに赴き、A 地域の課題を住民と共有した。会合の中で住民から「地域の特産品を活かした活動をしたらどうか」との意見が出たため、CSW はそれらを活かしたイベントの企画を提案した。イベントは地域の活性化と世代間交流を目的としたものとし、CSW は A 地域の小・中学校の参加を考えた。



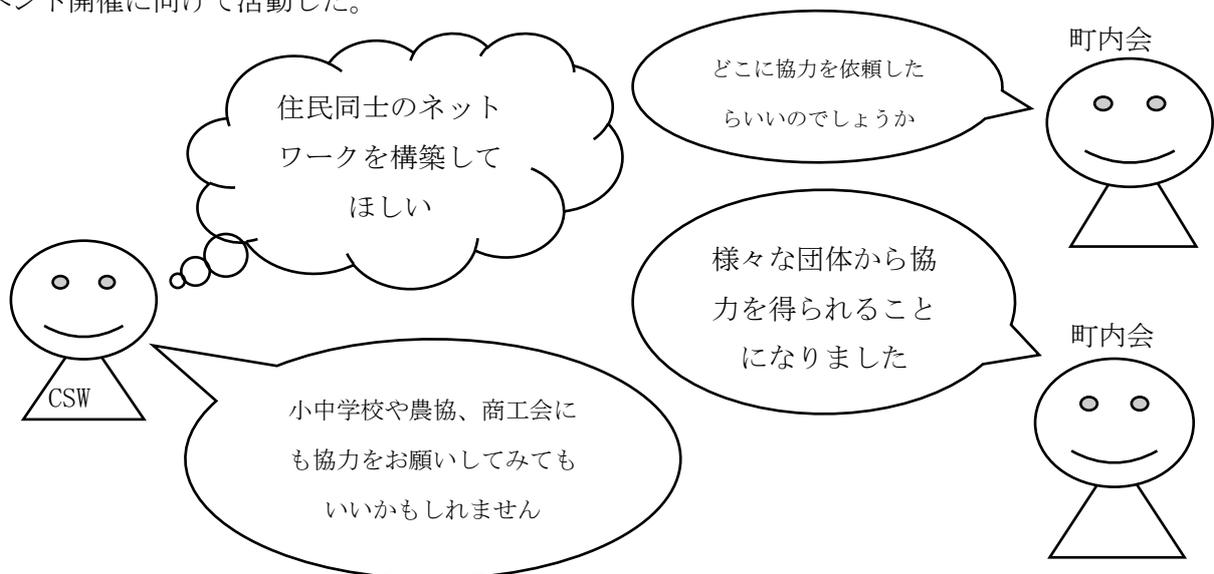
### 【場面1】考察

CSW がサロン等に赴き、日ごろ話することがないような話題や現状を話し合うことで、住民間の交流や社会福祉協議会との関係性の構築につながると考えられる。また、地域の特産品を取り入れたイベントを企画することで、A 地域での文化や伝統などを伝えることができ、地域における**地域文化維持機能**も働かせることができるのではないかと考える。また、個人では解決できない地域の課題に住民が気づいたことで**相互扶助機能**のきっかけになったのではないかと考える。



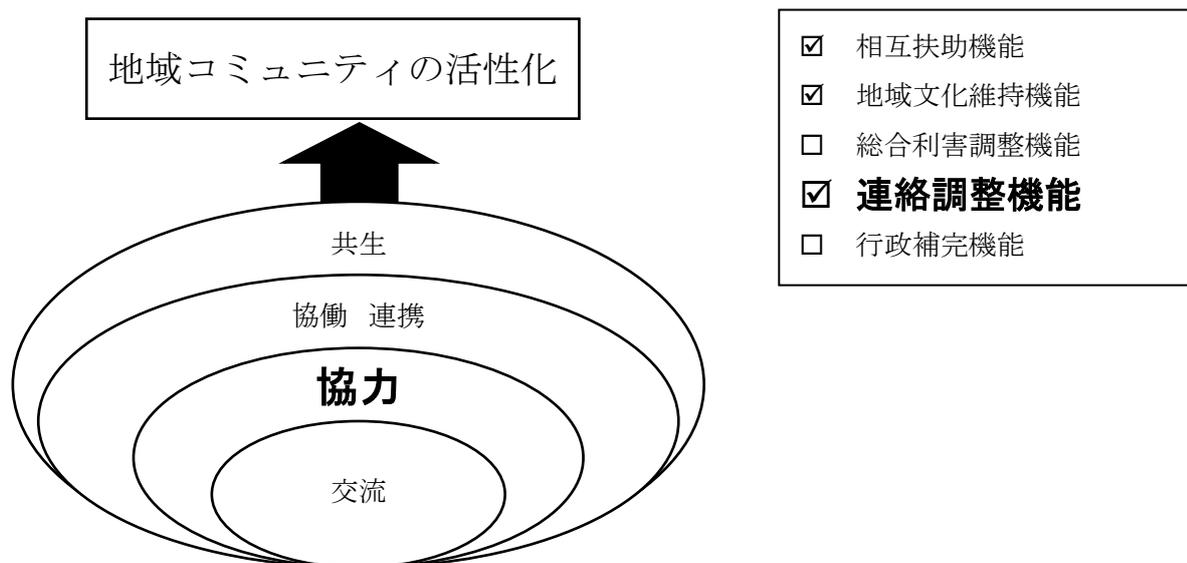
## 【場面2】協力

イベントに協力してもらうために地域住民が小学校や中学校、A 地域に既存している団体に連絡をとった。後日、イベント企画の共有のために参加してもらう農協や商工会、民生委員、小中学校の代表者と自治体、町内会、CSW が集まった。そこで、イベントに必要な日時、場所、資金、機材の確保について話し合った。地区の社会福祉協議会、小中学校などから当日機材を借りたり、地域住民同士でイベント開催に向けて活動した。



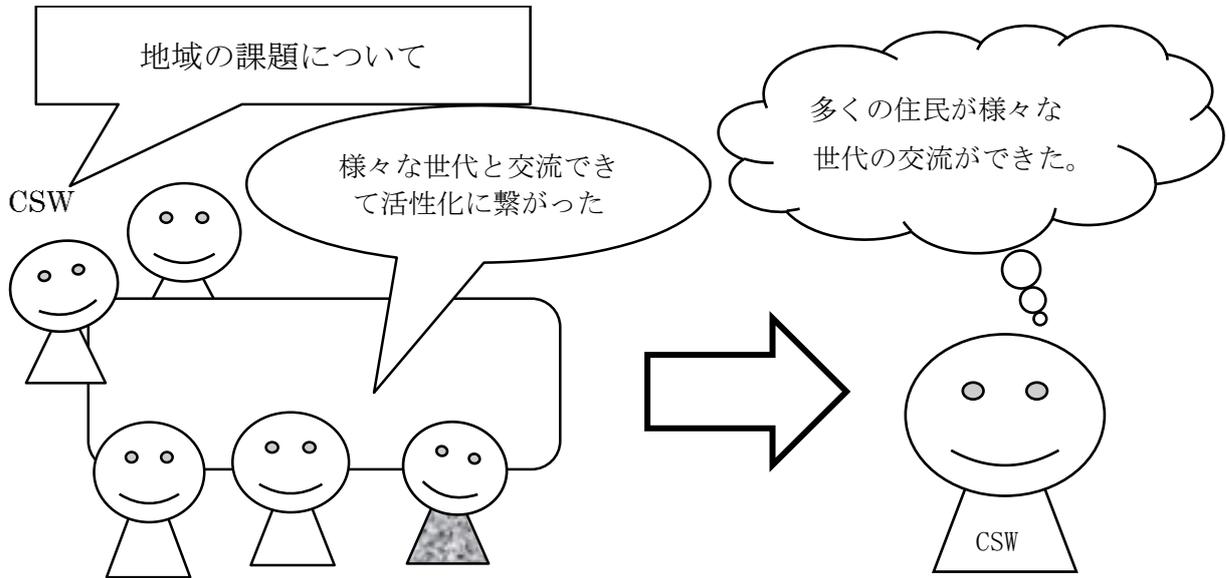
## 【場面2の考察】

ただ町内会や自治体が地区の課題解決に向けた企画を進めていくのではなく、地域全体が A 地域の課題を把握し、課題解決に向けての一步を踏み出した。地域住民に対して、CSW が企画についての助言を行ったことによって地域住民同士がイベント開催に向けて協力し合い、地域住民自らが連絡・調整を行う様子がみられた。そのことから、**連絡調整機能**が働いたと考えられる。また、協力し合うことで地域住民間のネットワークの構築にもつながったと考えられる。



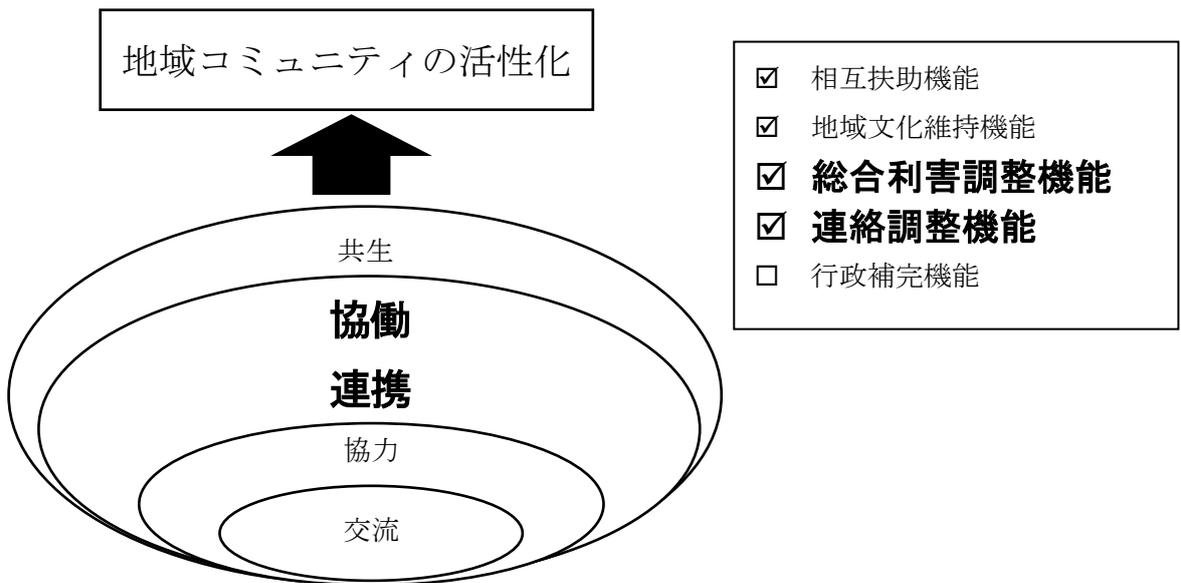
**【場面 3】 協働・連携**

実際にイベントを実施し、多くの地域住民が参加した。イベントの片づけは、地域住民自ら片付けを行う。イベント終了後、CSW と地域住民が反省会を行った。そこでは、イベントを通し地域の課題がどのように解決したのかを話し合い、既存の団体や小中学校が参加したことで、様々な世代の交流ができ、A 地域の住民同士が交流できていたと感じた。



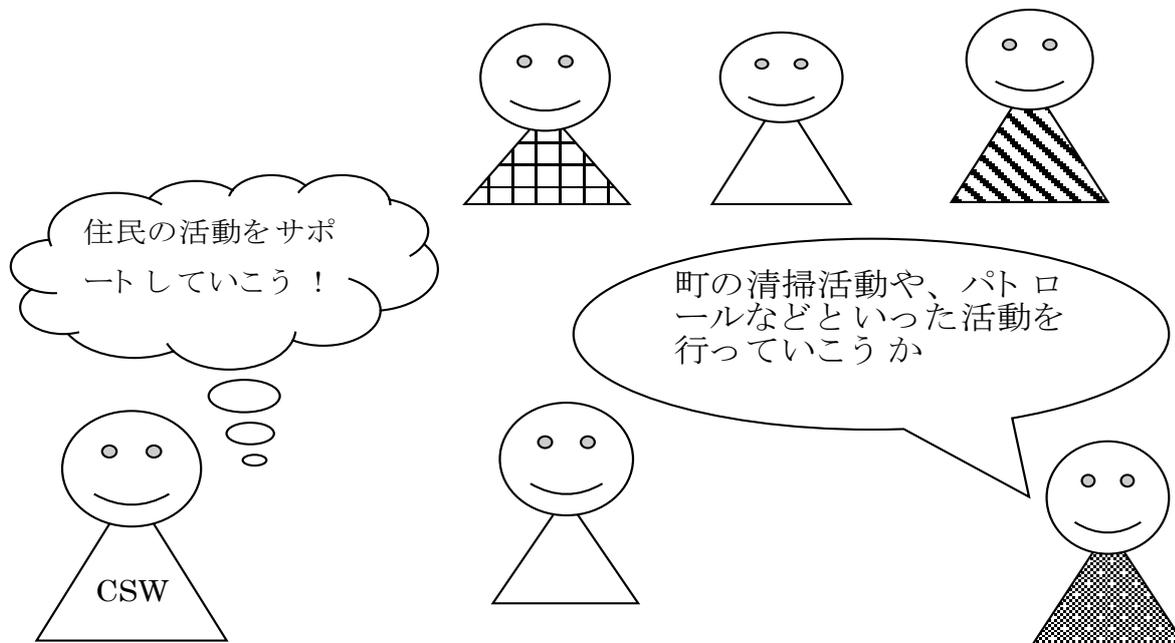
**【場面 3 の考察】**

反省会で他機関の専門職や地域住民の意見が出たため CSW がまとめ、相互に連携をすることで**連絡調整機能**が働いたと考える。また、CSW だけではイベントを行うことが難しい。そのため、地域住民に出店などイベントに参加してもらうことで、課題を理解しイベントを行ったことから**総合利害調整機能**が働いたと考える。さらに、イベントを通して、地域の課題を解決するための方法を地域住民が考えることにつながるのではないかと考える。



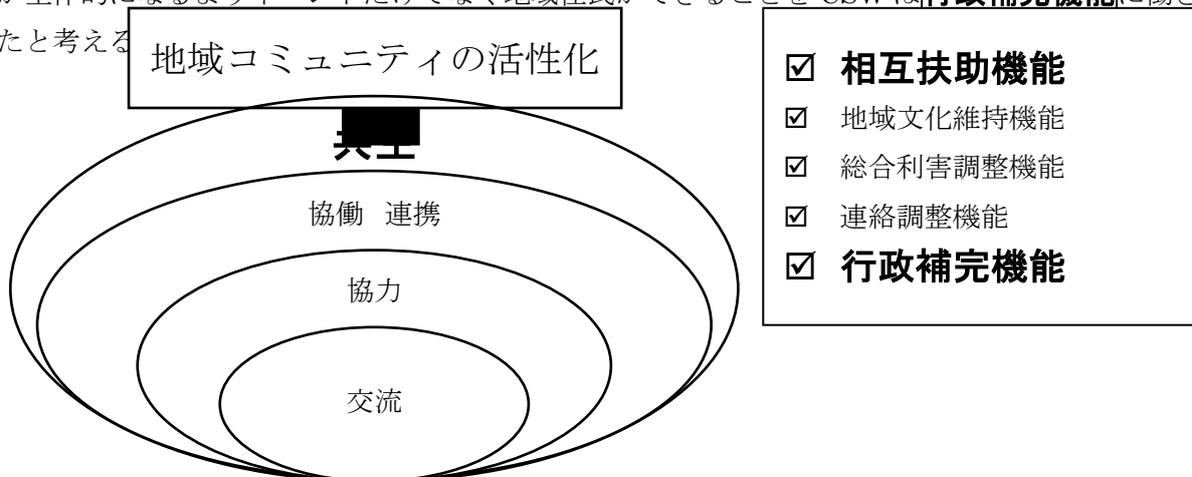
**【場面 4】 共生**

イベント終了後の反省会で、地域住民から賑わいのある町をこれからも維持していきたいという意見が出た。イベントだけでなく、定期的に何か活動を行っていくための話し合いを行う日程について話し合っていく、地域住民が自ら地域活性化のために主体的に動いていくようになっていった。



**【場面 4 の考察】**

CSW は反省会を行うことによって**相互扶助機能**につなげ、話し合いの場を設けることができると考えた。また、反省会で地域住民から町の賑わいを維持していきたいという意見が出たため、地域住民に定期的に活動を行うことを提案し、その活動を行う際に既存の団体と連携をしていき、地域住民が主体的になるようイベントだけでなく地域住民ができることをCSWは**行政補完機能**に働きかけたと考える。



ユニティの活動の流れの中で機能することによって地域コミュニティの活性化につながると理解した。

CSW は、地域住民を組織化し、地域住民が主体となり地域の課題に向けて住民の働く意欲を引き出せるよう介入していく。そのなかで、地域に既存しているコミュニティ同士の関係性は一時的なものではなく継続的なものでなくてはならないと考える。そのため、地域コミュニティの活性化の流れの中で CSW が間接的に介入し、5つの機能が働くことによって、住民同士のネットワークが構築し地域住民同士が日常生活の中で相互に補完し合い、それが地域住民の住みやすいまちづくり、地域の活性化につながると考えた。そして、CSW は地域住民とのネットワークが途切れることがないように側面的かつ継続的に支援を行う必要がある。

私たちは本研究を通して、CSW は地域の課題解決のために意図的に地域住民が主体として活動できるよう、地域住民の意見を尊重し、地域に既存している社会資源を活用して地域全体に働きかけていくことが大切であると理解した。そして、今後は本研究を通して学んだことを活かし、利用者を主体としたよりよい支援を常に考え、提供することができるソーシャルワーカーになりたい。

## 7. おわりに

本日はお忙しい中、私たちの発表をお聞きくださりありがとうございました。

私たちのグループは実習領域が異なることで共通した体験がなかなかあがらず、自分たちのやりたい研究のテーマが定まりませんでした。しかし、実習担当教員からの助言をうけ、私たちは話し合いを幾度もなく重ね、地域コミュニティについての研究をしたいとメンバーの意向が一つになりました。しかし、研究をする中で右往左往し、本当にこのテーマでいいのか、悩み研究が進まなくなってしまうこともありました。メンバー一人ひとりが積極的に意見を出し、研究をまとめることができました。

こうして今日の報告会を迎えることができたのは、実習を受け入れてくださった実習担当職員をはじめとする実習先の職員の皆様、利用者の皆様、最後までご指導くださった実習担当教員のおかげだと思っています。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。また、私たちのために連絡や調整をしてくださった実習助手の方、いつもアドバイスや優しい言葉をかけ、励ましてくださった先輩方、今日のために準備をしてくれた後輩たちには本当に感謝しています。

最後に、この一年間支えあった実習生の仲間たち、それぞれが頑張っている姿を見て刺激になり、それが励みになりました。みんなと一緒に頑張れて本当によかったです。そして、温かいご飯を作り、影ながら応援してくれた家族。これまで支えてくださったすべての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

## 8. 引用・参考文献

- ・ 社会福祉士養成講座編集委員会『地域福祉の理論と方法』中央法規 2015年
- ・ 山内 一宏『少子高齢化時代におけるコミュニティの役割 ～地域コミュニティの再生～』  
参議院事務局企画調査室編『立法と調査 288号』 2009年
- ・ 『地域コミュニティ活性化方策調査報告書』愛知県地域復興部地域政策 2009年